

開館30周年記念

みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

実施日・話者・話題・場所

※ 詳細は、ホームページをご覧ください。

11月11日(日)

松園 万亀雄 (国立民族学博物館長)

究極のスローフード

ー東アフリカ農村の家庭料理

於: 展示場内休憩所

11月17日(土)

特別企画

名誉教授のみんなく案内

栗田 靖之

「ブータン王国 はじめての憲法と選挙」

10:30~11:15 於: 南アジア展示

杉村 棟

「西アジアの生活と絨毯」

11:45~12:30 於: 西アジア展示

藤井 知昭

「民族音楽の世界」

15:00~15:45 於: 音楽展示

大給 近達

「アマゾン調査で学んだこと」

16:00~16:45 於: アメリカ展示

■時間: 14:30~15:30(予定)

■参加費: 無料(ただし、常設展観覧料が必要)

* 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。

11月23日(金・祝)

中牧 弘允 (民族文化研究部教授)

カミとホトケのすみか ー日本の祭にさぐる

於: 日本の文化展示

料理小屋で、夕食を作りながら
たべる兄弟姉妹たち
(ケニア・グシイの村で 1978年)

11月24日(土)

平井 京之介 (民族文化研究部准教授)

ラオスの出家僧 ー私の体験から

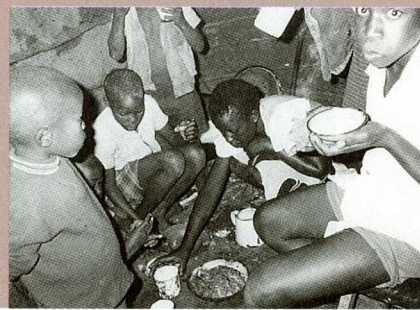
於: 企画展「世界を集める」

11月25日(日)

三尾 稔 (民族社会研究部准教授)

インド神々の世界

於: 南アジア展示



編集後記

民博展示場が一般公開されたのが1977年11月17日、本年おこなわれてきた数々の開館30周年記念事業のピークが今月、本号でも、緒方貞子氏と館長との対談が巻頭を飾る特集記事である。ちなみに10周年、20周年の際の特集記事を振り返ってみると、1987年11月号では開館時の展示に携わった教員による座談会が生まれ、苦労話とともに民博の作り出した展示理念が語られていて、展示活動に対する民博の自信のほどが見て取れる。1997年11月号では外部からの展示評価が特集記事のひとつであった。今号の対談のテーマが国際協力と民族学との関係であるのは、直近の10年間、法人化の流れを受けて、研究活動と博物館活動とのあらたな連携関係を模索してきた民博の変化が反映されている。さらなる今後の10年間で、民博はどう変貌を遂げていくであろうか。とは言え、本誌は民博の広報・普及誌であり、市民と民博との接点のひとつを引き続き担っていくことに変わりはない。市民の方々の応援なくしては成り立ちにくい民博の諸活動へのご支援を、引き続きお願いしたい。(久保正敏)

月刊
みんなく

次号予告/12月号特集
マンガ

2007年11月号 第31巻第11号通巻第362号
2007年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敬夫

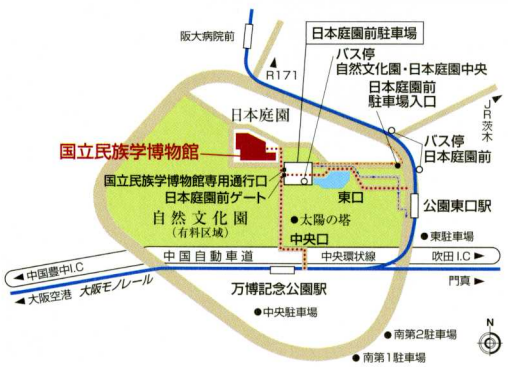
編集委員 池谷和信(編集長) 榎永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。